

「富山県農業・農村振興計画」骨子（案）に対する主なご意見と計画（案）への反映

* 前回の農政審議会（R7.11.25）および農業者等への意見照会で寄せられたご意見

1 農業の人材確保・育成と生産性向上	
ご意見	計画（案）への反映
<ul style="list-style-type: none"> ・「稼げる経営体」のモデルが必要。 ・米価高騰で、高収益作物作付けの必要性認識が低下している。どのような営農計画を立てていけば良いかを新たな富山県農業・農村振興計画で示してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・（１）「稼げる農業の実現」で、経営モデルを提示しています。 ・標準タイプ（農業所得 500 万円）、発展タイプ（農業所得 1,000 万円）とし、複数の経営類型・形態を記載しました。
<ul style="list-style-type: none"> ・農業者自身が力強くなることが必要。付加価値向上もあるが、効率化やコスト削減が必要。農業者が自走できる状態に。行政が対応しないといけない状況を脱しないと産業として厳しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・力強く、自走できる農業者＝「稼げる経営体」ととらえ、（１）に「稼げる農業の実現」を掲げました。併せて、効率化やコスト削減に向けた支援について、個別に記載しています。
<ul style="list-style-type: none"> ・目標指標を販売額で設定すると、価格に大きく左右される。米の値段が急騰したこともあり、目標は生産量で示した方が良いのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「稼げる」指標としては、金額で示すことがわかりやすく、販売額の目標を設定しました。販売額は生産量×単価であるため、生産量も要素に含まれると考えます。
<ul style="list-style-type: none"> ・農家同士の交流が重要。同じ問題意識をもって、アイデアを出し合っていく仕組みを整えてほしい。 ・農業者同士の情報交換ができておらず、隣の集落が何をやっているかわからない状況。その中で広域連携を進めるのはなかなかハードルが高いのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・（２）⑤「地域営農体制への継続支援」の中で、「地域の農業者間の交流促進」を記載しました。まずは、県域や地域毎にある、青年農業者協議会や農業者協議会、集落営農組織協議会などの存在を関係機関や市町村とも連携のうえ周知し、参加を図るとともに、積極的な意見交換を促してまいります。
<ul style="list-style-type: none"> ・「食料安全保障の確保」、県民に対する豊かな食生活と食料の安定的な供給という観点から、農用地を守り、力強い、稼げる農業経営体を育成し、可能な限り担い手へ農地の集約を進めることが第一に重要 	<ul style="list-style-type: none"> ・担い手への農地集積率を目標指標とするとともに、（２）①「地域計画のブラッシュアップと実現」で、地域計画の協議の場において担い手への集約を図ることを記載しました。
<ul style="list-style-type: none"> ・目標指標について、「企業参入」または「第三者継承」に関するものを入れてはどうか 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標指標に、「とやま農業経営・参入等促進センターの相談件数」を追加しました。
<ul style="list-style-type: none"> ・稼げる農業が強調されているが、半農半Xのように、「稼げる」「大規模化」以外の方向性も盛り込んでもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・（３）「多様な農業人材の活躍」の具体的な取組みに「半農半Xなど多様な形態の営農参画」を記載しました。
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化で農業を辞めたい人が多く、近隣担い手の引き受けも限界がある。規模の小さい農家を引き継ぐマッチングの場・システムがあると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・（２）「地域農業を支える担い手の確保・育成」の中の「地域ぐるみでの新規就農者受入体制づくりを支援」や「第三者継承・参入を含めた企業との連携の推進」の中で検討します。

<ul style="list-style-type: none"> ・「中山間地での省力化」の具体的な例示、整備することのメリットを記載してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(4)「生産性向上に向けた技術導入と生産基盤の強化」に、平地と中山間地に分けてスマート農業導入効果のイメージを記載しました。
2 持続可能な農業生産	
<p style="text-align: center;">ご意見</p>	<p style="text-align: center;">計画（案）への反映</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・「富富富」はくず米が多く稼げないことが生産拡大のネックになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域にあった栽培技術や専用肥料の改良、品種改良を進めることを、(1)①「温暖化に対応した戦略的な米産地への転換」に記載しました。
<ul style="list-style-type: none"> ・水稻に比べ必要な面積や機械等の初期投資が小さいこともあり、園芸にとりくむ若い生産者が増えているが、必要な時期に手が足りないなどで失敗して、うまくいかない例も多く、対策が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(1)②「園芸作物の生産力強化・拡大」に、産地としての受け入れ体制づくりや定着に向けたフォローなどの取組みを記載しました。
3 食のとやまブランドの推進による消費・販路・輸出拡大	
<p style="text-align: center;">ご意見</p>	<p style="text-align: center;">計画（案）への反映</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・観光と食は密接に関わっている。富山には観光もあり、食もすばらしい。観光と連携したブランディングに継続して取組んでいくことが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(2)「インバウンド・輸出による販売拡大」の中で、観光振興と連携したインバウンド消費拡大の取組み等を記載しました。
<ul style="list-style-type: none"> ・食関連消費の拡大が稼げる農業につながる。訪日客だけでなく他県からの観光客も含め、インバウンド需要が重要。目標指標としても必要ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標指標に「インバウンドによる食関連消費額」を追加しました。
4 ワクワクする農山漁村の持続的な発展と都市との交流	
<p style="text-align: center;">ご意見</p>	<p style="text-align: center;">計画（案）への反映</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・地元自治会との連携が課題。スムーズに地元との連携がとれるようになれば、もっとたくさん農村の魅力が伝わるのではないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会や農業者など、多様な組織・人材の連携からなる（例えば）農村 RMO などの推進や週末とやま農村 Life 等の取組みを記載し、関係人口の拡大を推進します。
<ul style="list-style-type: none"> ・中山間地でのクマ問題について、農業への影響もあると考える。林業とのバランスで出没も変わってくると聞いたこともあるが、どのように考えているか。 ・クマ問題は農山村全体の環境の底上げが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(2)「中山間地域の活性化」の中で、「効果的な鳥獣被害防止対策の推進」を記載しています。集落内の環境管理として、放任果樹の除去やヤブの刈払い、里山林の整備、電気柵等での侵入防止対策等、地域でクマを寄せ付けない対策を広めてまいります。 ・農村・山村に熊を寄せ付けないためには、農業・林業の振興が重要です。林業と連携してセーフティゾーンの形成を進めます。

<ul style="list-style-type: none"> ・中山間の熊対策など人材不足については、藪の刈り払いなどの里山整備など農業に限らず全体で考えていかないといけない。農政以外への提案・提言も必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・H19「水と緑の森づくり税」創設以後、野生生物との棲み分けなど明るい里山の再生を目指す里山林整備を行っており、今後も関係課や他部局とも連携し継続してまいります。
5 災害に強い農業用施設の整備	
ご意見	計画（案）への反映
<ul style="list-style-type: none"> ・「地域における農業水利施設の保全体制が構築された割合」について具体的に何がわからないので、イメージできる表記にしてほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・「水土里ビジョンにより農業水利施設等の保全体制が構築された割合」に修正しました。具体的には、「水土里ビジョン」が策定された土地改良区の面積割合より算出します。
6 消費者が「生産」を支える機運の醸成	
ご意見	計画（案）への反映
<ul style="list-style-type: none"> ・農業振興地域の役割を社会課題として押し出してもらいたい。農業関係者だけでなく、地域としての視点でどう考えるかが農業振興に重要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な取組みに、「農業のもつ社会的意義の周知」を記載しました。生産者と消費者の交流促進等により、農業の役割や重要性を伝えます。
<ul style="list-style-type: none"> ・「消費者の理解醸成」には、生産コストだけでなく、流通・小売りまで含めたコストの見える化が必要。 ・食料を生産する側と消費者で目標は同じなのに、良いとする値段が違う。消費者が「生産」を支える機運の醸成については、日本国民全体の課題として問題提起が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食料システム法に基づき作成される、流通経費を含めたコスト指標（コメは公表済、他品目作成中）も活用しながら、消費者の役割も含め説明・周知することを、「合理的な価格形成への理解醸成」に記載しました。
<ul style="list-style-type: none"> ・卸に出荷するほどの量がない半農半Xや規模の小さい農家が直売所に出荷する際のサポートがあれば、直売所の品揃えバリエーションも増えて良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「食育・地産地消の推進」の中で、「直売所・インショップ等直売活動の充実」や「生産・供給体制の強化」を記載しました。
<ul style="list-style-type: none"> ・農業教育がうまくいっている学校は、地域の農家などが熱意をもって取り組んでいる。手弁当でやっているのが実情なので、何かしらサポートがあれば、より農業の学びが進むのでは。 	<ul style="list-style-type: none"> ・直接的な補助は難しいですが、作業の指導や出前事業等のサポートに対応します。また、市町村が行う農業体験等の食育活動は、国交付金を活用した補助事業の対象となります。 *種苗費等の他、農業者への講師謝金や圃場管理費も対象経費
その他	
ご意見	計画（案）への反映
<ul style="list-style-type: none"> ・農家の人づくりも大事だが、県の人づくりも大事。普及指導員の削減などないようにお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業者のニーズに的確に応えられるよう、人材の確保とスキル向上に努めてまいります。